

令和3年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大仙市)

1 市の概要(人口 78,603 人)※令和3年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和3年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	9園	15か所	1園	0園	20校

その他:小規模1 事業所内1 企業主導型1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 園、小学校互いの見方、捉え方、子どもの育ちへの理解に相違がある。 (2) 小学校入学後の生活、学習に適應できないケースが見られる。 (3) 幼小の交流活動、参観は行われているが、その後の協議や情報交換等の機会が少なく、幼児教育から学校教育への接続を意識した環境づくりが必要。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育アドバイザーを配置し、園訪問をはじめとする園との関わりから信頼関係を築き、保育の資の向上に向けて、支援していく。 ・小学校教育との円滑な接続に向け、教育委員会との連携を築き、幼小が「ともに育てたい子どもの姿」へ相互理解を深めていく。
主な内容(3年間)
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育アドバイザーを子ども支援課に2名配置する。 ・県主催の連絡協議会、研修会、事業実施市の研修会に参加し、アドバイザーのスキルを磨く。 ・就学前教育にかかる当課及び教育指導課と情報伝達を通じ、連携を強化していく。
(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・定期訪問ほか単発派遣の活用を促し、継続的に園を支援。 ・園内研修に必要な指導、助言をおこない、保育士の資質向上を図る。
(3) 専門性の向上のための研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・県要請訪問の機会を通じ、近隣施設間で保育参観、協議への参加や公開保育協議会に向けた地域で学び合う体制を構築する。 ・園の課題やニーズに即した研修会、講演会を実施し、保育の専門性を高める。
(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校区の授業参観及び協議への参加を勧める。 ・公開保育研究協議会への参加を促し、幼児教育から学校教育への繋ぎの理解を深める。 ・子どもの育ちや学びの連続性を意識した研修会を実施する。
(5) 県との連携体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の協議会、研修会へ積極的に参加する。 ・県指導主事と連携し、本事業を円滑に進める。



本日の保育について

年度別重点	
令和元年度	・ 県主催の協議会、研修会等に参加し、次年度から実施する事業計画、準備を行う。
令和2年度	・ 市教育委員会と連携し、市内の教育・保育施設及び小学校へ事業周知を図る。 ・ 県の事業、事業実施市の研修会に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上を図る。 ・ 園訪問を実施し、園の課題把握、解決に向けた支援をおこなう。 ・ 幼小連携活動のアンケートを実施し、幼小の課題や状況を把握する。
令和3年度	・ 園内研修がより充実できるよう、積極的に教育・保育アドバイザーの活用を促す。 ・ 保育のニーズに即した研修会、更なる幼小接続を意識した幼小合同研修会を実施する。 ・ 教育保育施設間でともに学び合う体制を定着する。

4 令和3年度の具体

目的
・ 教育・保育アドバイザー2名で活動。市内の教育・保育施設及び小学校を訪問し、事業年度計画を周知。園訪問、園内研修等の園支援を通じ、保育士等への関わりを深めていく。また、各小学校区の年間活動状況の実態を把握し、相互参観及び協議を促し、相互理解をより深まるよう、支援していく。
実施内容
<p>(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育アドバイザーを子ども支援課に2名配置（継続1名、新規1名） ・ 教育・保育アドバイザーによる事業計画の周知活動(市内小学校及び就学前教育・保育施設等) ・ 市内全就学前教育・保育施設及び小学校の年間行事、連携活動計画等の情報を収集 ・ 市教育委員会との連携を深めていくため、定期的に事業の進捗状況の報告、確認、情報交換、協議の場をもつ。 <p>○コロナ禍ではあったが、教育・保育アドバイザー2名で、市内の就学前教育・保育施設及び小学校を訪問し、事業の年間計画が周知できた。事業2年目となり、事業への理解が深まり、幼小連携に関する協議等にアドバイザーが関わっていくスタイルができていく。</p> <p>○教育委員会と定期的に（月に1回程度）情報交換し、事業の進捗状況等を確認できている。教育委員会からの働きかけもあり、小学校でも幼小連携の意識が深まってきた。</p> <p>●小学校区での連携活動に市教育委員会とともに参加し、市教育委員会との連携を更に深めていく。</p> <p>(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の就学前教育・保育施設への訪問を計画的に継続実施（27施設） 定期訪問：前期5～6月 後期11月～12月 (園の課題把握、保育の支援、支援を要する子の把握、教育・保育アドバイス) ・ 単発派遣訪問…園からの要請に応じておこなう。積極的な活用を促す。 ・ 園内研修への支援 (保育内容の充実、保育士等のサポート、園の課題解決に向けた支援) <p>【単発派遣等訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ せんぼくちびっくらんど みどり園 日時：令和3年4月6日（火） 内容：公開保育研究協議会に向けて 意見交換等 ・ かえで保育園 日時：令和3年4月30日（金） 内容：保育内容について、支援が必要な子の対応について

- ・どれみ保育園
日時：令和3年5月14日（金）
内容：保育内容について、支援が必要な子への対応について
- ・かえで保育園
日時：令和3年5月21日（金）
内容：カリキュラムの作成について
- ・おおたわんぱくランド
日時：令和3年7月1日（木）
内容：支援が必要な子への対応について
- ・はなだて保育園
日時：令和3年7月20日（火）
内容：園内研修について
- ・協和まほろばこども園
日時：令和3年8月6日（金）
内容：保育内容、保育の質向上について、男性保育会の研修（参観及び助言）
- ・内小友保育園
日時：令和3年8月18日（水）
内容：特別支援教育の園内研修
- ・内小友保育園
日時：令和3年8月24日（火）
内容：保育内容、支援が必要な子への対応、保育の質の向上について
- ・はなだて保育園
日時：令和3年8月27日（金）
内容：保育内容について、園内研修について
- ・なかせんワイワイランド
日時：令和3年9月2日（木）
内容：保育内容について
- ・大曲中央こども園
日時：令和3年10月5日（火）
内容：園内研修について
- ・はなだて保育園
日時：令和3年10月11日（月）
内容：保育と協議内容について
- ・はなだて保育園
日時：令和3年10月19日（火）
内容：園内研修について
- ・大曲北保育園
日時：令和3年11月25日（木）
内容：園内研修について
- ・日の出ベビー保育園
日時：令和3年12月20日（月）
内容：園内研修について
- ・かえで保育園大曲
日時：令和3年12月27日（月）
内容：気になる子どもへのかかわりについて



男性保育会（大空大仙）

○コロナ禍の状況下により、訪問時間の短縮、延期等があったが、定期訪問以外の単発派遣依頼に随時対応できた。

○園内研修を充実させるため、積極的にアドバイザーを活用する施設が増えてきた。

●アドバイザーが園への適切なアドバイス、支援をするため更に保育の見方を深めていく。

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（大仙市）

⑥派遣実績 計 47 施設/全 47 施設 115 回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：私立0園（0回） ・保育園：公立0園（0回）、私立14園（50回） ・幼保連携型認定こども園：私立10園（33回） ・その他の施設：小規模保育施設 1か所（1回）、認可外保育施設 1か所（2回）、事業所内保育施設 1か所（1回） ・小学校：20校（28回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（9回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、1園（2回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（7回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、27園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、27園（27回）） （目標のうち、20校（20回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、18園（18回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、9校（10回）） （目標のうち、12園（12回））
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各園を年2回以上訪問し、園の実態、課題の把握及び課題解決に向けた支援と保育の質の向上を図る。 ・県と同行の際、情報提供をしながら、訪問機会を増やしていく。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

◇県の指導主事要請訪問の機会を通じ、年齢別や保育士等のキャリア別に応じた職員を配置し、施設形態を越えた学び合う体制を推進し、その体制を定着できるよう支援していく。

【要請訪問実施施設】

保育園：10施設 認定こども園：10施設 事業所内保育施設：1施設

○設置形態を越え、他園の保育を見合い、協議に参加する体制が整えられ、自園や自身の保育に活かそうとする意識が深まってきている。希望園への参加型にすることで、主体的な学び合いに発展してきている。

○ワークショップ型の協議が定着し、保育士等が活発に意見を出しあっている。

協議後には、アドバイザーが保育士等と一対一で関わり、保育の振り返りや保育士等により寄り添った支援、アドバイスをを行うことで保育士等からの信頼関係が一層深まっている。

●アドバイザーが学び合う体制づくりを勧める中で、今後、園同士で互いに学び合いの体制づくりが構築できるよう継続的に関わりながら、どう定着させていくか。

◇保育士等のスキルアップ研修

・「大仙市保育実践力向上研修会Ⅰ」を実施。

目的：保育に必要な保育の記録と指導計画の作成について理解や知識をより深め、中堅リーダーとして職務を遂行する上で必要とされる資質向上を図る。

日時：令和3年7月9日（金）午後1時30分～午後3時50分

講義：「保育の記録と指導計画の作成について」

講師：秋田県教育庁 幼保推進班 指導主事 高橋 亜希子 氏

対象：市内教育・保育施設職員の主任、副主任保育士等

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

<アンケート結果>

◇講義について

① 非常に満足…15名 ②満足…9名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

◇演習について

①非常に満足…14名 ②満足…8名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名
＜参加者の感想より＞

- ・SOAPの視点という言葉を知った。子どもの内面理解の大切さは自覚しているつもりでも記録にきちんと表しているかといえ自信がない。今回ポイントを聞くことができたので、きちんと理解した上で、園でも活用したい。
- ・実際に指導計画を久しぶりに書いてみて、先生達の大変さを改めて感じた。何を大切に書くのか園で話し合いたいと思う。
- ・指導計画を指導する立場として、どう伝えていけば良いか悩む事も多い。講義を受け、自分自身も勉強になった。園内研修等で取り上げ、職員に伝えていきたい。
- ・子どもを肯定的に捉えて記録することが大切だと思っても、演習では、うまく書き進めることができなかった。若手保育士に指導の仕方を聞いたように、自分の中でも一つ一つ考えを出して考えていきたい。

○具体的な事例やポイントを押さえた指導に加え、それをどのように経験の少ない保育士等に指導していくかを考える演習を通して、中堅リーダーとしての自覚と資質を高める良い機会となった。

●研修で得た知識を共有し、保育の質の向上に繋げるために教育・保育アドバイザーがどうかかわっていくか。

- ・「大仙市保育実践力向上研修会Ⅱ」を実施。

目的：講義・演習を通じて、指導要録・保育要録の作成の仕方を学び、幼児期から学齢期までの情報共有や切れ目のない支援の必要性を再確認する。

日時：令和4年1月21日（金）午後1時30分～午後3時50分

講義：指導要録・保育要録の作成の仕方について

講師：秋田県教育庁 南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

対象：市内教育・保育施設職員

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

＜アンケート結果＞

◇講義について

①非常に満足…18名 ②満足…5名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

◇演習について

①非常に満足…16名 ②満足…7名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

＜参加者の感想より＞

- ・10の姿を捉えながら子どもの育ちを記入していく所を難しく感じていたが、“分類”すると分かり易いことがわかった。また、他園の先生が書いたものを見る機会がなかったので大変参考になったし、自分で書いてみたことでより勉強になった。
- ・未満児にも通じる大切な内容で、たくさん学ぶことができた。子どもの育ちにしっかりと目を向けて保育に努めたいと思う。
- ・講義を聞いて理解したと思っても、実際に10の姿を取り入れながら文章にするのは難しいと思った。自分の文章に“ツッコミ”を入れ、何がどう育ったかをしっかり捉えて記入するようにしたい。
- ・未満児の個別の指導計画の書き方にも通じることがたくさんあった。また、自分の文章を他の先生にも見てもらって、自分では気付かない書き方に気付くことができた。
- ・例を挙げ具体的に講義していただき大変分かりやすかった。マイナス部分を書き出すことがよくあるが“ポジティブめがね”で捉え方を変えることで子どもの見方、感じ方も違ってくるともよく理解できた。
- ・他の先生の記述を見ることで、視点、援助、変容など大変参考になった。

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・市内小学校（20校）への事業計画のための訪問。（年間行事、連携計画等の情報収集）
- ・保育や授業の相互参観及び協議への参加を促し、幼小の相互理解を深め、よりよい連携を図るための支援をおこなう。
- ・幼小で育む資質・能力をふまえ、接続を見通した教育課程の編成の支援をおこなう。
- ・幼小連携のための合同研修会の開催
- ・幼小連携だより「だいせん元気っ子」の発行（月1回程度）
（授業参観及び研究協議）就学前教育・保育施設職員からの参加
- ・大曲小学校
日時：令和3年5月26日（水）
内容：1年生4クラスの授業参観
参加：大曲中央こども園、大曲南保育園、大曲東保育園、大曲駅前こども園、日の出ベビー保育園、どれみ保育園 6園から14名
- ・太田北小学校
日時：令和3年7月7日（水）
内容：1年生（図工）の授業参観
参加：おおたわんぱくランドから2名
- ・中仙小学校
日時：令和3年7月15日（木）
内容：1年生（国語）の授業参観・協議
参加：なかせんワイワイらんどから1名
- ・藤木小学校
日時：令和3年8月31日（火）
内容：1年生（特別活動）の授業参観・協議
参加：藤木保育園から2名
- ・四ツ屋小学校
日時：令和3年10月20日（水）
内容：1年生（国語）の授業参観・協議
参加：四ツ屋こども園から2名
- ・清水小学校
日時：令和3年10月22日（金）
内容：1年生（国語）6年生（国語）の授業参観・協議
参加：なかせんワイワイらんどから1名
- ・大曲小学校
日時：令和3年11月1日（月）
内容：1年生（算数）2年生（図工）4年生（図工）6年生（算数）の授業参観・協議
参加：大曲中央こども園、大曲駅前こども園、大曲東保育園、大曲北保育園 4園から8名
- ・大曲東小学校
日時：令和3年11月4日（木）
内容：1年生（国語）2年生（国語）
参加：大曲東保育園、大曲南保育園 2園から2名
- ・大川西根小学校
日時：令和3年11月16日（火）
内容：1年生（算数）
参加：大川西根保育園から2名（園長、1年生が年長児の時の担任）
- ・南外小学校
日時：令和3年12月17日（金）



小学校一年生の授業参観

内容：1年生（音楽）

参加：つきの木こども園から1名（4歳児クラス担任：1年生が年長児の時の担任）
〈保育参観及び園内研修〉小学校職員からの参加

・大川西根保育園

日時：令和3年6月10日（木）

内容：5歳児クラスの保育

参加：大川西根小学校から1名（教頭）

・みつば保育園

日時：令和3年6月23日（水）

内容：4・5歳児クラスの保育

参加：西仙北小学校から1名（教務主任）

・なかせんワイワイらんど

日時：令和3年6月29日（火）

内容：5歳児クラスの保育

参加：中仙小学校から1名（教頭）、清水小学校から1名（1年担任）

・大曲東保育園

日時：令和3年7月8日（木）

内容：2歳児、5歳児クラスの保育

参加：大曲小学校から1名（教頭）

・協和まほろばこども園

日時：令和3年7月13日（火）

内容：5歳児クラスの保育

参加：協和小学校から1名（教頭）

・角間川保育園

日時：令和3年7月14日（水）

内容：4・5歳児クラスの保育

参加：角間川小学校から1名（1年担任）

・つきの木こども園

日時：令和3年7月15日（木）

内容：5歳児クラスの保育

参加：南外小学校から1名（校長）

・大曲中央こども園

日時：令和3年10月13日（水）

内容：2歳児・5歳児クラスの保育

参加：大曲小学校から3名（教頭、通級担当、1年主任）

・中仙東保育園

日時：令和3年10月26日（火）

内容：5歳児クラスの保育

参加：豊成小学校から3名（4、5、6年の担任）

・大曲北保育園

日時：令和3年11月30日（火）

内容：2歳児・5歳児クラスの保育

参加：大曲小学校から3名（教頭、通級）花館小学校から3名（校長、通級、1年担任）

・内小友保育園

日時：令和3年12月1日（水）

内容：4・5歳児混合クラスの保育



小学校教諭を交えての協議会



夢中になって遊ぶ子どもたち

参加：内小友小学校から1名（校長）

・藤木保育園

日時：令和3年12月7日（火）

内容：2歳児クラス 4・5歳児混合クラス

参加：藤木保育園から2名（教頭、1年担任）

*参加予定はあったもののコロナの感染拡大により実施できなかった園は5園

○保育参観に留まらず協議に参加する小学校もあり、園での学びが小学校への学びへ繋がっていることがより意識できる機会になっている。

○スタートカリキュラムを小学校だけでなく、園も関わって作成し、共有しようとする小学校区も増えてきている。

●スタートカリキュラムの作成を共有できていない小学校区もあり、偏りがある。

◇就学前・小学校大仙地区合同研修会を開催。（オンライン研修）

目的：講義や小学校区での意見交換等を通じ、就学前教育と小学校教育の円滑な接続に向けたよりよい連携の在り方を考える。

日時：令和3年9月16日（木）午後1時～午後3時30分

内容：講義、意見交換

講義：「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師：秋田県教育庁 南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

秋田県教育庁 南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏

対象：市内教育・保育施設職員及び小学校職員

※同時開催計画の公開保育研究協議会（午前の部）はコロナ感染拡大防止のため、中止。

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

<参加者の感想より>

◇就学前施設の参加者より

・情報を共有する時間を設けてもらい、近隣の取組が聞けてとても勉強になった。

・1年生は「ゼロからのスタートではない」園で積み重ねた資質・能力と経験を小学校にしっかりと伝える情報交換にしたい。

・子どもたちは就学への期待を膨らませているので、1人1人の子どもの力を発揮できる場を設け自己肯定感をもたせて小学校生活への意欲につなげていきたい。

・各年齢の発達を捉え、必要な経験を積み重ねられるような保育の大切さを改めて感じた。

・幼小連携状況を数値化することで見えてくる課題が理解でき興味深かった。

・小学校のスタートカリキュラムやユニバースデザイン等の取組を、改めて知ることができた。

◇小学校の参加者より

・就学前と就学後の両方の立場からお話を聞くことができたので大変良かった。

・これまで年長児を「できない人、お世話してあげなければならない人」として、交流の計画を立ててしまっていた。

・スタートカリキュラムの必要性、重要性を分かり易く教えていただきました。

・園小の連携が実質「7年部」に限られていたが、さっそく全職員で育ちや学びを共有していきたい。

・1年生を担当し「ゼロからのスタートではない」ことを日々実感している。10の姿につながる学びを得てきたことを学習中の姿や休み時間の過ごし方から見て取れる。そして既に出来ることを生かして問題解決に取り組んでいる。

○コロナ感染防止のため、当初の予定から急遽オンライン研修に変更となったが、2人の講師が幼小への繋がりをより意識できる内容をプログラミングし、丁寧で、かつわかりやすい講義であったことや教育委員会との連携協力、教育・保育アドバイザーのスムーズな進行により、充実した研修会になった。参加者から好評価を得た。

- コロナ感染防止のため、同時開催を予定していた公開保育研究協議会を中止としたが、予め、子どもの遊びや活動場面の様子が視聴でき、小学校区ごとの協議ができる環境を整えられれば更に充実できる研修会になった。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・ 県主催の連絡協議会等、事業への継続的な参加。
 - ・ 県主催事業を通じ、事業実施市との情報交換及び連携。
 - ・ 事業実施市の公開保育の視察や研修会への参加。
 - ・ 県指導主事要請訪問の同行を継続。（保育に対する指導や助言の共有）
- 連絡協議会では、他実施市との情報交換に加えて、動画や写真、エピソード等を使用している子ども理解や保育のあり方を考え合うことで、アドバイザーの役割を再確認し、意欲を高めることができた。また、要請訪問の同行や研修会への参加により、保育の見方のスキルを高めアドバイスに生かすことができた。
- 他実施市のアドバイザーとの連携を深め、協議会だけでなく普段から必要に応じて情報交換し、自市の取組に生かすこと。また指導主事や保育指導員の園（保育士等）への指導や助言をより日常の保育の向上に結び付け、保育士等の意欲の向上につなげるためのアドバイザーの関わり方。

◇教育・保育アドバイザーのスキルアップを図るため、ADに学ぶ会を実施。

日 時：令和3年11月12日（金）

会 場：保育参観… はなだて保育園

保育の振り返り…花館公民館

アドバイザー協議…はなび・アム

参集者：秋田県教育庁 幼保推進班 指導主事及び教育・保育アドバイザー

秋田県教育庁 南教育事務所 主任指導主事、指導主事

事業実施市（横手市・仙北市） 教育・保育アドバイザー

はなだて保育園 園長、主任、保育担任等

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R元～R3)の成果と課題

令和元年度は、事業準備期として、教育・保育アドバイザーを1名配置し、次年度以降の事業計画を立案。教育・保育アドバイザーの役割や事業活用のためのパンフレット作成に加え、単発派遣対応の単発派遣依頼兼承諾書を作成した。また、次年度から開始となる事業内容について、法人事務局及び市内教育・保育施設、小学校へ周知した。園訪問は、前期・後期に実施し、アドバイザーと園との信頼関係を築くことができた。県、事業実施市との連携では、県主催のアドバイザー連絡協議会はじめ、県所管研修、事業実施市（横手市、男鹿市、仙北市）の研修会等に積極的に参加し、情報交換等で交流を図った。アドバイザーのスキルが身に付き、次年度以降の事業のビジョンが構築できた。教育委員会と連携を図るため、事業打ち合わせをおこない、事業連携担当者を選出いただく。事業に先駆け、教育委員会と合同企画による「就学期の教育・保育合同研修会」を開催。講義、演習を通じて、幼小が共に子どもの育ちと学びのために連携していくことへの理解が進んだ。

令和2年度から事業開始となり、教育・保育アドバイザーを1名配置し、2名体制で活動。保育・教育に精通するアドバイザーが配置されたことで、園、小学校へのアプローチがしやすくなった。市内の全各教育・保育施設（27施設）及び小学校（21校）訪問で事業の年度計画を周知。小学校区での連携活動状況把握のため、幼小連携活動アンケートを実施し、各小学校区での連携状況を教育・保育アドバイザーによる連携だよりを通じ、各教育・保育施設、小学校、教育委員会で情報共有することができた。また、定期的な園訪問（前期・後期）以外にもアドバイザーを派遣要請する施設もあり、保育力向上の意欲が高まってきた。保育士等のための研修会では、指導計画の作成について3歳未満児、3歳以上児に分けておこなった。具体的な事例やポイントを押さえた指導や受講者が互いの指導計画を見合う演習により、指導計画の作成についての理解が深まった。地域で

学び合う体制構築では、県指導主事による要請訪問の機会を通じ、設置形態を越えた学び合いにより、他園の保育を見合う経験から新たな気付きを得る機会となり、共に保育の在り方や環境構成について学び合うことができた。小学校との連携では、保育参観に留まらず、協議まで参加することで、これまで見えなかった園での育ちや学びについて理解し、小学校教育に活かそうとする意識が高まり、園での育ちや学び、資質・能力について改めて考える機会となった。また、教育委員会との連携では、事業担当者を通じ、次年度事業の「公開保育研究協議会」等の事業について、課長レベルで打ち合わせをおこなうことができた。県及び事業実施市との連携では、県主催事業、事業実施市の研修会に参加することで、アドバイザーのスキルアップに繋がった。

令和3年度も継続して、教育・保育アドバイザー2名による体制で活動。アドバイザーと園、小との関係性が深まってきた。コロナ禍の中において事業が延期になることもあったが、定期訪問ほか園内研修をより充実させるため、派遣要請する施設が増えてきた。コロナ禍の状況をふまえ、日程調整しながら、要請に応じた。保育士等の資質向上研修会は、中堅リーダーを対象として保育の記録と指導計画の作成について講義、演習をおこなった。保育者の見方や読み取る力が必要であること、子ども一人一人の実態をよく見て内面を理解できるよう視点をもち、保育を実践していくことの大切さを学んだという感想があった。研修会での学びを園で確実に共有し、実践できるよう支援していく必要がある。地域で学び合う体制構築では、希望園への参加型にすることで、保育士等が活発に意見を出し合い、主体的な学び合いに発展してきている。園同士で学び合いの場がもてるよう、継続的に関わっていく必要がある。小学校との連携では、授業参観後の協議に参加する園もあり、園での学びが小学校への学びへと繋がっていることがより意識できる機会になり、スタートカリキュラムを園も関わって作成し、共有しようとする小学校区も増えている。就学前・小学校大仙地区合同研修会では、市内全教育・保育施設職員及び小学校職員を対象に「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」と題し、講義、意見交換をおこなった。1年生は「0からのスタートではない」園でたくさん育っている姿を大切にしたい等、指導要領に基づくカリキュラムの連続性、園、小それぞれのアプローチや見方について、改めて考える時間になった等の感想があった。

「園と小学校をつなぐ」ため、幼小接続の大切さについての気付きが今後もより深められるよう、関係機関との連携、協力、共有を図り、今度も事業を推進していく必要がある。